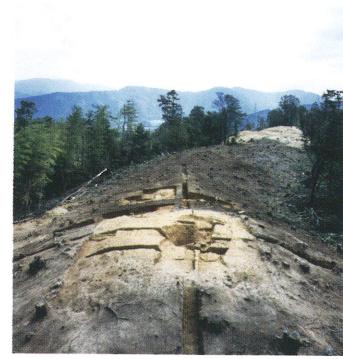


## 昔のひとのくらしのあとをさぐる（校区の主な遺跡）

### ■定納古墳群（古墳時代／新庄）

横山丘陵南端の尾根上に築かれた4世紀の古墳群です。道路工事で失われた2古墳を合わせて9基から構成され、1号墳が前方後方墳のほかは、いずれも方墳と考えられます。墳丘の形態から東日本の影響がみられ、東海・北陸と近畿を水陸の交通路で結ぶ要に位置する息長古墳群の特徴をうかがうことができます。



定納古墳群

### ■塚の越古墳（古墳時代／新庄）

水田の中にのこる古墳時代後期（6世紀初頭）の前方後円墳です。東が後円部、西が前方部で全長約46mを測ります。すでに墳丘の大半ではなく、古墳のまわりの発掘調査では、水田の下から周濠（堀）が見つかり、古墳を飾っていた家形埴輪・人物埴輪・馬形埴輪・鶏形埴輪などが出土しました。また、墳丘裾部には石見型埴輪が回っていたようです。



塚の越古墳石見型埴輪出土状況

### ■山津照神社古墳（古墳時代／能登瀬／県史跡）

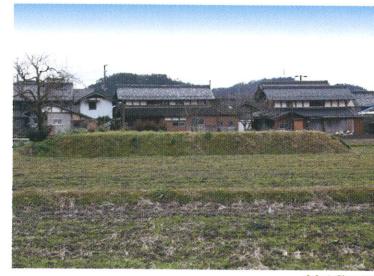
全長46mの前方後円墳で、明治15年（1882）、後円部から横穴式石室が発見されました。石室の中から銅鏡、金銅製冠、刀、玉類、馬の道具や土器が出土しました。冠は、福井県若狭町や高島市で出土したものと共通し、大陸からの影響がみられます。6世紀前半の息長古墳群最後の前方後円墳です。



金銅製冠（山津照神社古墳）

### ■箕浦城跡（中世／箕浦・新庄）

市内の在地領主の平地居館のなかで最も大規模に築かれていたのが今井氏の箕浦城です。天野川北岸に井戸村屋敷・奥屋敷・新庄城と横一列に並んでいました。今井氏は、京極氏の古くからの家臣で、現在も水田中に高くなった土地があり今井氏の居館と考えられます。箕浦には商人が集まる市場があり発展しました。



箕浦城跡

### ■今井一族の墓（中世／西円寺）

今井一族の菩提寺は西圓寺（西円寺）です。山腹に「天正一二年（1584）三月十四日賢西禪定門大雄山」と刻まれた墓があり、今井権六秀形の墓石です。秀形は羽柴秀吉に仕えましたが、天正11年（1583）伊勢の嶺城で戦死し、今井氏の嫡流は滅びました。



今井一族の墓

### ■新庄家墓所（中世／寺倉）

総寧寺（寺倉）には、巨大な五輪塔がならぶ新庄氏の墓所があります。新庄氏は、新庄の在地領主で、浅井氏の家臣として朝妻城を守ります。関ヶ原の戦いで西軍に属し領地を失いますが、慶長9年（1604）、常陸国麻生藩主（茨城県行方市）として三万三百石を与えられ大名に復帰しました。



新庄家墓所



### 【資料館を利用しよう！】

#### 近江はにわ館・図書館

（米原市顔戸281-1）

開館時間：10:00～18:00

休館日：月曜日、毎月第4木曜日  
入場料：無料

1 いそこのせぢなる 天の川  
音のさやけさ 末かけて  
つかせぬ里と息長の  
ゆかりもふかき学び舎よ

2 ここに集へる 我が童は  
いづの敏心 ふり起こし  
学びの道にいそしみて  
御國の為に勉めなん



学校のまわりの宝物⑥

## 息長小学校区

親子探訪ノススメ

【校 区】

多和田、能登瀬、日光寺、寺倉、新庄、箕浦  
西円寺、岩脇、近江さくらが丘、リバティー近江

平成28年度埋蔵文化財公開活用事業

# 校区のようす

息長小学校区は米原市の西部にあたり、見渡せば小高い山々が連なり、近くには天野川が穏やかに流れる自然豊かなどかな田園地帯です。しかし、校庭脇には北陸自動車道が通り、名神高速道路や米原駅にも近い交通の便のよいところでもあります。校区は、横山丘陵の南西側裾部と、その西側に発達する天野川の堆積作用による三角州と氾濫原から成り立っています。東部の集落は、横山丘陵の南端山際にあり、西部の集落は横山山麓の天野川沖積平野。南部の集落は天野川流域に立地します。古代豪族・息長氏の拠点であり、古代には息長荘が置かれ、校歌に歌われます。中世には、箕浦荘や朝妻荘となり、都から東国へ向かう東山道と中世北国街道や、琵琶湖東部の要港・朝妻湊への分岐点として発展しました。

# 校区のあゆみ

近江地域では、縄文時代から奈良時代にかけて連綿と営まれた集落跡が見つかっています。古墳時代のはじめには、水辺の祭の場がみつかった黒田遺跡(箕浦・顔戸)が中心となります。集落を囲む大規模な溝や祭りの場、首長墓を伴う集落遺跡が発掘されています。息長氏の墳墓群は3世紀前半から築かれはじめ、西円寺では3世紀後半の溝を巡らせた低く土を盛った墓がみつかりました。息長古墳群では、6世紀前半の山津照神社古墳まで丘陵や平野部で確認されている主要なものだけで22基を数えます。中世には今井氏が、箕浦荘の経済力を背景に、守護大名京極氏の重臣として勢力を持ちます。また、岩脇氏館跡・西円寺館跡・能登瀬城跡など、平野部に京極氏や今井氏の家臣の居館が構えられました。



奉納角力

## 息長小学校区アラカルト

### 【自然】オオムラサキ

夏の雑木林の樹間を縫うように、翅の音をパタパタたてながら飛翔するオオムラサキは、昭和32年に国蝶に指定されました。翅を広げるとオスで10cm、メスでは12cmにもなり、前翅中央部はおもむきのある紫色に光り輝いています。生息のためには、成虫の生活の場となる雑木林と、幼虫のエサになるエノキが必要で、かぶと山(多和田)では保全活動がおこなわれています。

### 【まつり】奉納角力

息長小学校には市内で唯一、立派な土俵があり、昭和16年(1941)から相撲大会が伝統行事としておこなわれていました。近江地域には、山津照神社と日撫神社に奉納角力が伝えられています。相撲は収穫を祈願する神事がはじまりですが、こちらでは鎌倉幕府討幕をはかるために、ひそかにこの地を訪れた後鳥羽上皇の前で披露したと伝えられています。

### 【地域の先人】古代豪族息長氏

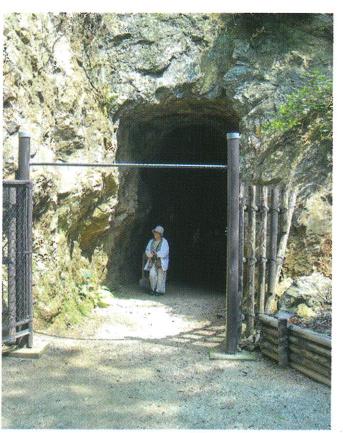
息長氏は、近江国坂田郡の南部地域、現在の米原市近江地域付近の天野川(息長川)流域に本拠地を置いていた古代豪族です。仲哀天皇の妃・神功皇后は息長氏の出身で、息長氏が中央の政権に進出するきっかけになりました。また、継体天皇の即位にも重要な役割を果たし、敏達天皇の皇后に息長広姫がなると、のちの天智・天武天皇へと天皇家の系譜をつなげました。

### 【戦争遺跡】機関車退避壕(岩脇)

米原駅は東海道本線と北陸本線をつなぎ、太平洋戦争中には兵員の輸送や、兵器を運搬する重要な場所でした。このため連合軍の攻撃目標となり、空襲を避けるために列車壕が計画されました。米原駅から北に約2キロの岩脇山まで線路が延び、南斜面に2カ所掘られましたが、未完のまま敗戦を迎えるました。



山津照神社古墳絵図



機関車退避壕



★遺跡名のあと(番号)は、米原市遺跡リーフレットに対応しています。  
★遺跡リーフレットは、伊吹山文化資料館にあります。



石見型埴輪(塚の越古墳)



獸文鏡  
(山津照神社古墳)



五鈴鏡  
(山津照神社古墳)